◆◆◆楠町のまちの成り立ち◆◆◆

参考文献：楠町教育委員会『楠町史』(1978)、
四日市市楠総合支所『新編楠町史』(2005)

寛政 1789-1800

寛政期の楠郷絵図（四郷八王子町豊田家文書）

＜自然堤防・浜堤の上に形成された農村集落＞

楠町は三角州に位置し、頻繁に洪水に見舞われました。反面、肥沃な大地が得られ、農耕地の 9 割が水田地帯として発達しました。海や鈴鹿川の土砂が堆積して形成された自然堤防・浜堤の上に農村集落が形成されました。文禄 3 年（1594 年）の太閤検地では 6 つの村落（北一色、小倉、本郷、北五味塚、南川、南五味塚）が確認され、寛政期の楠郷絵図を見ると、丑ノ新田（小倉の枝郷）と吉崎新田が新たに加わっています。寛政期の家屋の合計は 427 軒です（平成 16 年では 3945 軒）。

明治 1890

明治 23 年測図「四日市町」国土地理院

＜酒造業・漁業の始まり＞

明治 22 年に「楠村」が成立しました。この時代も農村集落が主ですが、酒造業が南五味塚の北部で、漁業が南五味塚の海岸部で発達しつつあります。

＜公共交通＞

各村を結んでいた道路は、細く複雑に折れ曲がっていました。最寄りの鉄道は明治 29 年に開業した関西鉄道の河原田駅でした。

昭和 1950

昭和 25 年米軍撮影の空中写真

＜工業化と農業の共存＞

昭和 7 年～13 年に、4 大工場（東洋紡績、三重製網、宝酒造、東亜紡織）の工場誘致に成功しました。楠町は四日市に次ぐ第 2 位、三重県全体の 10%の工場生産額を誇りました。

他の農村地域では以前からの水田地帯のままで、都市化は見られません。寄宿舎や社宅での集約的な生活が行われるため、繊維大工場の誘致は周辺を広く都市化するものではありませんでした。

現代 2007

航空空中写真（2007.7.13 撮影）

＜工業化・住宅地化の進展と農業の衰退＞

四日市コンビナート関連工場が多数進出し、工業化が更に進みました。それに伴い、住宅地が増加しています。一方で、農地は減少し、専業農家から兼業農家になる人が多くなっています。

また、本郷地区と北五味塚地区の間、吉崎地区、南五味塚地区付近で住宅地化が進行しつつあります。